

平成 26 年度第 2 回奄美・琉球世界自然遺産候補地科学委員会
議事概要（助言・要請事項等）(案)

- <日 時> 平成 27 年 2 月 27 日（金） 14：00～17：00
- <場 所> 沖縄県庁 講堂
- <出席者> 土屋委員長、米田副委員長、石井委員、尾崎委員、小野寺委員、芝委員、服部委員、宮本委員、山田委員、横田委員
議事 3 に関する話題提供者：琉球大学・戸田守准教授
（欠席：伊澤委員、太田委員、久保田委員。事務局関係者は省略）
- <議 事> (1) 今年度の各種会議の報告について
(2) 奄美・琉球世界自然遺産推薦書骨子案について
(3) 奄美・琉球世界自然遺産に関する話題提供
(4) その他

<概 要>

議事 1 今年度の各種会議の報告について

- 今年度開催した科学委員会、奄美、琉球の各ワーキング会議の結果を報告し、今後の検討に対する意見を伺った。

委員助言・要請事項等

- ワーキング・グループ会議で次の 3 点の重要性を強く感じた。
ノネコ等の対策の手を緩めるとすぐに増加し、その影響が顕著に出るため継続する努力が必要。
例えば、奄美大島では LCC の乗り入れに伴う来島者増加で、金作原等のコア地域への入り込みも増えている。このような現在進行しつつある過剰利用の問題をどのように抑制しつつ保全するか、具体的な取り組みが求められる。
林業が行われている奄美大島や沖縄島北部では、世界遺産地域との関係の中で林業活動の場がどのような位置付けになるか、早期の検討が必要。今回の推薦地は、自然と地域の共存が大きな柱である。
- 徳之島のノネコ管理に関して、TNR が実施されている。ノネコの管理・対策手法について、行政が主体となり検討し、適正な方向へ誘導することが必要と考える。
- 個別の島の管理方策も必要だが、「奄美・琉球」全体としての管理方針も必要だ。
- 科学委員会・委員として協力体制をとる・応援するためには、推薦・登録までのスケジュール感と、問題意識を共有して次のステップに進むことが必要だ。
- 今回の推薦では、推薦区域自体のデータとともに、周辺地域のデータの把握も必要だ。
例えば、世界遺産推薦地域の周辺地域も含めてモニタリングサイトを設定し、地元自治体が自主的に保全に取り組むことで、世界遺産委員会や IUCN に強くアピールできるのではないか。それには専門家の協力も必要だ。

議事 2 奄美・琉球世界自然遺産推薦書骨子案について

- 推薦書ドラフト案を説明し、今後の記述内容の充実に向けて意見を伺った。

委員助言・要請事項等

- 推薦書内の数値の記述について工夫・修正が必要（例：p94 の森林面積と割合が四捨五入の関係で合計が 100%にならない等）。
- 「高次捕食者を欠く生態系」(p82) という特徴のため、外来種の侵入には脆弱なことを記述する（例：与論島のクロイワトカゲモドキの亜種がイタチの侵入で絶滅）。その一方で、在来種の多くが保たれており、様々な努力を行っていることは、アピールポイントになり得る。
- 絶滅した種（例：リュウキュウカラスバト、ミヤココキクガシラコウモリ）は、可能な範囲で絶滅要因とともに記述しておく、今後の必要な対策につながると思われる。
- 昆虫類や無脊椎動物は種数が多く、推薦地域の価値を記述可能な視点がさらにあると思われる。関連分野の専門家に意見を聞いて記述を充実して欲しい。
- 海外の世界遺産地域等との比較(p118)で、南・北回帰線周辺の島と比較して、奄美・琉球は海拔高度が高い点の特徴。比較対象地の表に各島嶼の最高標高を加えるとよい。
- 推薦書「4. 保全状況と影響要因」では、推薦区域の保全だけでなく、バッファゾーンを含めた垂直方向・水平方向への連続性の確保について記述するとよい。比較的小規模な推薦区域しか見込まれない可能性が高い地域でも、コアな地域を軸に重要な地域を広げていき、海岸部や他島との繋がりへと展開できるような見通しを記述してはどうか。
- 「シリアル」という用語が解りにくいので、解りやすい用語を検討する。
- 学名変更について誰が見ても分かるよう、IUCN が使用するものと国内で標準的に用いているものを併記した方がよい。
- 研究と論文公表には時間のギャップが生じる。科学的な根拠を示すことが困難な情報を推薦書に記述する際は留意が必要。

議事 3 奄美・琉球世界自然遺産に関する話題提供

- 琉球大学・戸田准教授より「琉球弧の古地理と生物相の成り立ちについて」、また、沖縄県自然保護・緑化推進課・謝名堂課長より「沖縄県における世界自然遺産に向けた取り組み」について話題提供を頂いた。
- 議事概要では省略（議事録に収録）。

議事 4 その他

- 来年度、地域連絡会議を設置し、その下に 4 地域ごとの部会を設置し、それぞれに関係市町村が参画することを説明・了承された。

委員助言・要請事項等

- 推薦書に有用な情報が多く含まれており、将来的には一般向けの出版物等として広く公表できるとよい。また、未発表のデータ等が含まれている場合があるため、公開に当たっては十分に配慮する必要がある。

以上